2017年6月25日に開催されました、日本健康太極拳協会　第31・32回熊本県支部大会の様子が地元の新聞に掲載されました。

太極拳でリラックス

県支部大会 人吉に県内外から660人

NPO法人日本健康太極拳協会の第31・32回熊本県支部大会は25日、人吉スポーツパレスで開かれ、県内外から約660人が参加して楽しく体を動かした。

同協会は、昭和35年に楊名時氏が創始した「楊名時八段錦・太極拳」を取り入れ、無理なく体を動かす生涯の健康法として普及に努めている。

第31回大会は、昨年4月に開く予定だったが、熊本地震の発生により開催を見送り、第32回大会と合わせて実施した。

協会会員や県内の愛好者らが一堂に会し、正午に開式。熊本県支部の平田敏子支部長は熊本地震における復興の現状などを踏まえて「これからも太極拳を長く続けていきたい。きょうは体も心もリラックスして楽しんでほしい」と呼び掛けた。

続いて、同協会の荒木ひとし本部理事、楊進理事長、日中太極拳交流会協会指導員の楊寒さんがあいさつし、80歳以上の支部員5人にプレゼントが贈られた。

参加者全員で準備運動を行い、参加者は音楽と「イー アル サン スー」の掛け声に合わせて両手を上げたり脚を前げるといった動作をゆっくりと繰り返した。

準備運動でゆっくりと体を動かす参加者

そのあと、県内の中央、球磨、城南支部がそれぞれ太極拳を披露。支部員らによる「三勇士輪の百合拳」、お祝い演舞、楊理事長らによる太極剣演舞もあり、参加者は太極拳を通して楽しい時間を過ごしていた。

熊本県支部事務局の東豊さんは「天気が心配だったが、中高年を中心に多くの参加があり、昨年の分まで盛り上がって良かったです」と話していた。